

抱樸館を支える会 会報

16号



2016年2月1日 発行:抱樸館を支える会

「シール貼りが待ち遠しいんですよ」

支える会会報の宛名シール貼り取材(12月7日)

2か月に一度お届けしている会報に貼られている会員の皆様の宛名シール、これは抱樸館福岡の入居者が貼っています。その様子を取材させていただきました。

ここでシール貼りをしているのはグリーンコープの共同購入組合員の会員分です。12月14日週に皆さんにお届けした会報15号は、この取材時にシール貼りしたものです。



また店舗の組合員と一般の

会員分は、郵送でお届けですので、この日に封筒入れ作業を行なっていただき、後日支える会事務局で宛名シールを貼っています。

11月に会員募集の案内を行なったので、今回は新規会員も含めて約7800人分の作業です。

午前中は入居者5名+スタッフ2名で10時から昼まで、午後は入居者9名+スタッフ4名で13時から15時まで作業を行ないました。

シールは、「生協・支部・配達曜日・コース・配達順・班名・氏名」が印刷されているものを順に貼っていきます。

作業をされている入居者の森田一美さんを取材させていただきました。

——いつもシール貼りはされているのですか。

森田：このシール貼りは毎回させていただい

ています。

——作業はどうですか。

森田：作業は好きですよ。難しくないし楽しいです。大歓迎です。内職のようなものですね。内職はよくやりましたよ。



——お気持ちを聞かせてください。

森田：入居させてもらっていますので、何かしないといけないと思っています。支えてくださっているみなさんに届く会報なので喜んでさせてもらっています。次は2月ですよ。楽しみです。

おっと、トラブル発生です。シールがちぎれてしまいました。「手書きで宛名シールを作って貼る」ことになりました。手書きの宛名が届いたあなたの会報かもしれません。

シールが貼られた会報は、翌日支部ごとに梱包されて、物流センターを経由して各支部に届きます。この梱包作業は抱樸館福岡のスタッフが行ないます。



今後もし入居者が宛名シール貼りをした会報をお届けしていきます。

演劇を通じてコミュニケーション能力を高めよう

「演劇コミュニケーション講座取材」(12月7日)

この演劇コミュニケーション講座は、特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡が行なっている講座(ワークショップ)です。

※ワークショップとは、特定のことについて討議や体験を重ねる研修会です。

このワークショップは、抱樸館福岡の隣にあるふくしセンター多の津で開かれています。抱樸館の入居者にはコミュニケーションをとることが苦手な方も多いことから、人との関わり方を学ぶために開催することとなりました。

今日は「新聞から劇を作る」の「前編」で、新聞の記事を材料に、興味のあるものを選び、その理由を話し合うことにしています。

本日の進行役は福岡で活動する演劇関係者の幸田真洋さんです。参加者は抱樸館福岡の入居者8名と抱樸館のスタッフ、ふくしセンターの「つむぐ」のスタッフも参加しました。5名ずつの2つのグループに分かれてテーブルに座って、自己紹介が済むと、幸田さんから本日の進行の説明です。

幸田:「皆さんに新聞を1部ずつお渡しします。新聞を見ていただいて、記事を3つ選んでいただけます。選ぶのは記事でも良いし、写真だけでも良いです。また広告部分でも構いません。20分くらいの間に選んでください」



新聞は昨日(12月6日)の新聞です。参加者は新聞を読み始めます。

Q: 3つ以上はダメですか。

A: これは!と思うもの3つに絞り込んでください。

幸田:「はい、選んだらその記事をハサミで切り取ってください」



ハサミが配られて皆さん切り取ります。

幸田:「続いて記事を選んだ理由を説明してもらいますが、単に説明してもらうのではありません。ここに各グループ5枚のカードを用意しました。カードは『主役』『黒幕』『得した人』『損

した人』『自由』のいずれかです。それぞれの役になりきって自分が選んだ記事について発言をしてもらいます。『自由』はどの役になっても構いません。ではひとつ例をとってやってみましょう。私は“インドのモディ首相が水害被災地を視察した写真が合成ねつ造だった”という記事を選びました。カードが『主役』であれば『ばれちゃったよ。やっつけられないな』、『自由』のカードであれば妹になって『なんでそんなことやったのよ』という具合をお願いします。」



記事は3つずつですのでカードを引きながら3巡します。

- ・記事「サンタの訃報掲載騒ぎ」、『黒幕』カードで(サンタになって)「こんな日が来るかもしれないのだよ子どもたち」
- ・記事「作家 杉本章子さん死去」、『得した人』カードで(ゴーストライターになって)「本当は私が書いていた。印税は私がもらう」
- ・記事「“私はマララ”の映画ができた」、『主役』カードで(マララになって)「私は負けない」
- ・記事「九州の地方移住3900人超」、『黒幕』カードで(福岡県知事になって)「県の税収が減るので困る」
- ・記事「水木しげるが描いた戦争」、『自由』カードで(ずっと近くで見てきた人)「つらかったらろうな水木さん」
- ・記事「25日までクリスマスマーケット」、『損した人』カードで(※ご本人の気持ちで)「行く時間と金がない」
- ・記事「アメリカ乱射テロ、内なる敵 把握限界」、『主役』カードが当たりましたが、「私は容疑者になって話すことはしたくないので、オバマ大統領になります。『とにかくテロはぶっ潰す』」

幸田:「ひとつの記事について意見交換を深めるなどをしてみてください」

ひとつのグループでは、「アメリカ乱射テロ、内なる敵 把握限界」を材料に更に意見交換で盛り上がります。

- ・追い込まれたテロ犯人「くやしい」
- ・私はテロ犯は「苦しい」と思っていると思います。IS(イスラミックステート)は仕方なくテロをしているので苦しいと思っていると考え

ています。自分たちには目的がある、こうして欲しいと思っているのに世界が従ってくれない。だから仕方なくやっている、好きでもないのに殺し合いをしているのだと思います。

- ・私はテロがなくなることはないと思います。テロは人がいる限りなくならない。感性がある人間同士はぶつかる。ロボットであれば良いのだが。人間は完ぺきではないので一致することはない。ぴったり合うことはないと思う。ぴったり合うなんて気持ち悪い。
- ・ちょっとでも共感することがあれば良いのではないか。思いを合わせよう。
- ・合わせる気持ちを持つのは人には無理だと思う。
- ・このように、自分ではない人の気持ちになって考えるのも良いことだと思う。

幸田：「では次に、記事を貼って壁新聞を作ることになります。記事を選んだ人は一人ですが、他の人も共感することがあるのではないかと思います。そんなことを考えながら記事の貼る場所を考えていきましょう。そして記事にコメントを書き込んでみてください。イラストや絵でも何でも構いませんよ。最後に新聞の名前を付けてください。」



ひとつのグループは【皆の愛のかわらばん】、もう一つは【現実を抱きしめる新聞】になりました。コメントやイラストも書き込んでいきます。幸田：「皆さんお疲れ様です。今日は、こんな見方がある、こうも考えられるよ、というような新しい発見や新しい見方を感じていただけたのではないかと思います。次回はみなさんに作っていただいた新聞をもとに短歌を作り、劇にしていきたいと思います。」

特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡、代表の糸山裕子さんにお聞きしました。

——ワークショップの中で、参加者の活発な意見発表にびっくりしました。

糸山：自分自身の意見を述べる、相手の意見も聞く、相手と意見のキャッチボールをするということは演劇の戯曲そのものです。その意味でコミュニケーションに自信のない人にこのワークショップが有用だと思います。

——特定非営利活動法人アートマネジメントセンター福岡はどんな団体なのですか。

糸山：福岡を中心とした国内外の若手舞台芸術家の活動を支援するとともに、舞台芸術を通じたまちづくりや地域の発展を図る事業をしています。福岡演劇フェスティバルの事務局や、福岡市が設置した「ぼんプラザホール」の運営も任されています。福岡で演劇を担う人々をサポートするといういろいろな活動をしています。



——今回のワークショップ「演劇コミュニケーション講座」は少し違う角度の取り組みですね。

糸山：団体を立ち上げる時にNPO法人化したことから、何かもっと具体的に演劇の手法を使ってできることはないかという思いはありました。NPOは公益性を求められますから。6年ほど前の冬、旧博多駅に段ボールを持って走り込む方の人数が急激に増えたこともあって、真剣に考えはじめました。当時福岡には子どもたちのための演劇ワークショップは盛んに実施され始めていましたので、それを大人にも活用できないかと思い、調べました。そこでイギリスではホームレスの人たちがオペラに取り組み、オペラ公演をするような活動をしていることも知りました。それで福岡市に相談に行き、就労自立支援センターで演劇のワークショップを4年前から2014年度まで行なってきました。

——抱樸館福岡とのつながりは、どこからですか。

糸山：福岡市で実施していた時から抱樸館福岡の事は知っていたので、施設を出た後の卒業生ともつながりを持っているこの場所でワークショップを実施したいと思い、ご相談しました。

——これから先のワークショップはどのようにお考えですか。

糸山：演劇に取り組むということを生涯学習としてやれたら良いと思っています。抱樸館福岡に演劇部が出来ると良いですね。演劇を通して楽しいことが増えたり、他人とコミュニケーションをとることへの苦手意識が少なくなると良いなと思っています。

——ありがとうございました。

「抱樸館には2ヶ月しか居ませんでした、人生を立て直すには濃い期間でした。」 抱樸館福岡を“こころのよりどころ”というKさんを取材(1月5日)

Kさんは、現在50歳代前半の男性です。抱樸館福岡には2012年4月～6月の2ヶ月間入居されました。現在は福岡県内の大手の企業で嘱託職員として働いています。お正月休みに抱樸館福岡で取材をさせていただきました。

——ご出身はどちらですか。

K：長崎県佐世保市で生まれました。間もなく両親が離婚しましたので、2歳から7歳、小学校1年途中まで、4年間くらい長崎県内の父方の祖母の家で過ごしました。その後佐世保市内の父から引き取られて、高校も佐世保工業でした。

——就職はどうされたのですか。

K：学科は地質工学科で、炭鉱が盛んな時期はもてはやされた学科でしたが、私の時代には斜陽で、専門職に就いたのはクラスで5名くらいでした。私は就職が決まっていなかったのでダイハツのエンジンを作る滋賀県の会社の季節工として働き始めて、働き方が認められて準社員になったのですが、腱鞘炎がひどくなり、半年で退職しました。

——それから聞かせてください。

K：佐世保に戻り、働くことになるのですが、小さいときから機械や電気が好きだったので有線放送の工事会社で働くことになりました。ここで1年半くらい働いたのですが、同僚が電柱の途中から落下して複雑骨折するのを目の前で見て、この仕事が怖くなり、辞めました。当時は仕事を変えてもどこか見つかるだろうと思っていました。なかなか見つからなかったのですが、地元で車のガラスを修理・交換する専門会社で働くことになりました。自動車の修理の一部ではありますが、車のガラスを交換したり、隙間からの雨漏り補修、建築の大型機械の窓ガラス交換など、かなり専門的な仕事でもありました。しかし、当時（注：1980年代）で手取り10万円くらいしかない低賃金だったので、ここも1年ちょっとで辞めました。神奈川県で友達が派遣会社で働いており、そのツテで私も派遣会社で働くことになりました。電気部品の工場です3年ほど働きました。手取りで月に24～2

5万円くらいでした。この時期に昭和から平成になりました。

——何歳くらいのことですか。

K：もう25歳を過ぎていましたので、また佐世保に帰ることにしました。佐世保の米軍の電気



関係を修理する会社に就職しました。ここでは正社員でした。7～8年働き、その間に結婚して、離婚しました。ここを辞めたのは、この給与では子どもの養育費が払えなくなったからです。

——福岡でのことを聞かせてください。

K：福岡に出てきて、人材派遣会社で働くことになり、甘木市のロームで2年半、筑後市のロームの関連会社で2年半働きました。そのうち会社も縮小になることになって、装置を作る鳥栖市（佐賀県）の会社で1年半くらい働きました。その後、腕を見込まれたこともあるのですが、機械の修理・メンテナンスを1台いくらという事で請け負う一人親方として仕事をする事になりました。そして、京都郡苅田町（福岡県）の日産の工場で産業用ロボットのメンテナンスの仕事をしていたときに知り合った人に誘われて、福岡県内の港で仕事をする事になりました。この仕事は大手の孫請けで給与は安かったのですが、仕事が合っていたのか5年ほど働きました。ちょうど契約の期が終わる少し前に3.11（2011年東日本大震災）があり、仕事の再開の目処がなくなってしまいました。そこでツテを頼って愛知県のトヨタのホイールを作っている工場で機械のメンテナンスの仕事を2011年末までしました。この仕事で腰を痛めてしんどかったので、車に荷物を積んで、九州に戻ってきました。

——抱樸館に来られたきっかけはどういう事情ですか。

K：久留米の友達の家やホテルに寝泊りして仕事を探したのですが、思いのほか仕事が見つ

かりませんでした。インターネットカフェなどに泊まっていたのですが、いよいよお金もなくなり、保護施設に入居しようかと考えて抱樸館福岡に連絡しました。自分の状況を伝えたら、“まずは直接お話ししましょう”ということになり、抱樸館福岡に来ました。

——車で来られたのですよね。

K：車はとっくに売り払っていたので、自転車で来ました（注：久留米⇒抱樸館 約40km）。来て、すぐに入居できることになりました。2012年4月だったと思います。

——抱樸館での生活はどうか。

K：入居中に小型移動クレーンや玉掛け（注：クレーンなどに物を掛け外しする作業）の資格も取りました。またCAD（注：コンピュータを用いた

製図システム）については談話室のパソコンで勉強を始めたのですが、長時間



独占するわけにもいかず、スタッフに相談して自分でパソコンを買って自室で使う許可をもらって勉強しました。当時抱樸館からハローワークに週2回車を出していましたが、自分は毎日自転車で通っていました。久留米でも仕事を探そうとしたのですが、生活保護を申請しても「まず住所」ということで相手にしてもらえませんでした。仕事を探す前の段階でつまづくとうどうしようもありません。抱樸館での対応は本当に助かりました。

——抱樸館の印象を聞かせてください。

K：抱樸館には2ヶ月しか居なかったのですが、人生を立て直すには濃い期間でした。仕事に復帰できるように周りが支えてくれていることをひしひしと感じていました。資格の取得などのサポート体制が出来ていると思います。分からないことをスタッフの人に聞けば的確な答えがもらえます。入居者の中には私なんかよりも相当すばらしい経歴を持った方がたくさん居られます。しかし、何かの歯車が狂って抱樸館に入ることになったのだと思います。きっかけがあると再び仕事が出来ようになるのではないかと思います。

——就職はかなり早く決まったようですね。就職の際の様子を聞かせてください。

K：就職はハローワークで探しました。福岡県内の募集内容で、「あれっ」と思って住所を見たら、以前働いていたところの人員募集でした。人を頼って就職するのも嫌だったので、そのまま面接を受けました。結果的に採用されたのは、面接した人が以前の私の仕事振りを聞いていたようで、働き方がまじめで評価されたということがあったようです。それと、面接で「CADが出来ますか？」と聞かれて、「はいっ、出来ます」と胸を張って答えられたのが大きかったようです。入居中、抱樸館での勉強が役立ちました。震災前まで働いていた頃は孫請けで働いていたのですが、現在は大手の（K社の）嘱託職員として採用されています。

——Kさんが、まじめに働いて来たから現在の仕事があるのですよね。

K：黙々と働くと後につながるとつくづく思いました。今も仕事の場でも生活の場でも、何でもできることは直ぐにやるようにしています。

——Kさんは仕事を結構転々とされていますが、厚生年金等はどうなっているのですか。

K：幸い派遣会社などの期間も厚生年金に加入できていました。また一人親方の時期は国民年金に加入していたので大丈夫です。今の仕事に就いてから、過去の一部未納分も完納しました。



——抱樸館にも良く来られるということですね。

K：普段は来れないのですが、正月などには顔を出すようにしています。抱樸館は心のよりどころでもあります。スタッフの方も知っている人が何人も居られるし、共通の話題もあります。心が休まることもあります。3年以上経ちますがいまだに「昨日まで居た」ような気がしています。

——今日は本当に貴重なお話をありがとうございました。

年末年始、ホームレス支援行事あれこれ（2015～16年）

ホームレス支援団体は各地で活動されています。抱樸館ではこのような団体とも連携しながらホームレス者・生活困窮者の自立の活動をしています。これらの団体が、年末年始に、ホームレス者・自立者に、心も体も温まって欲しいと願って、沢山の方の協力を得て様々な取り組みをしました。今回は抱樸館福岡の書初め会も一緒にご案内します。

長崎ホームレスを支援する会では、

ホームレス状態から自立できた方や生活困窮者に、正月前に贈りものパックを届けました。切り餅・ぜんざい・おでん・黒豆・スープ・焼海苔・ふりかけ・カップ麺・レトルトカレー・ソーセージ・和菓子など、3500円分を1人のパックに詰

めて45名に、ボランティア11名が手分けして届けました（写真はお届けに向か



うボランティアの皆さんです）。お届けの際に留守だった方からも含め、手紙や電話・メールでお礼が届いたことや、昨年20名程だったお届け先を増やせたことをうれしく思っています。

また、「年末年始年越し村」として大晦日からの2泊3日で屋根のあるところで過ごしていただくために、1名を、アルコールやギャンブルなどの依存からの回復のための共同生活施設で受け入れていただきました。

美野島めぐみの家（福岡市）では、

美野島めぐみの家では、12月22日にクリスマス会が開催され、カトリック古賀教会のジュード神父

様のお話しの後、92人の来場者、40人のボランティアみんなで、クリスマスの讃美歌や



上を向いて歩こう、ふるさとなど懐かしい曲を

歌いました。食事は年に1度のすき焼き丼で、お吸い物、酢の物等の他、心づくしの差し入れのケーキ、菓子なども付き、心もお腹も満たされた時を過ごしました。靴下、手袋、カイロなどのプレゼントが渡されました。新年は1月5日から始まり、炊き込みご飯、ぜんざいなどのメニューで、74人の来場者、29人のボランティアでにぎわいました。

抱樸（旧：北九州ホームレス支援機構）では、

1月3日、新年炊き出しと追悼集会を北九州

市小倉北区の勝山公園で開き、野宿で年を越した方やボランティア総勢160人が集いました。追悼台には昨秋、路上で救急搬送



され53歳で帰らぬ人となった男性の墓碑銘が加わり、参加者ひとり一人が花を手向け、路上死を出さない社会を目指して決意を新たにしました。ご提供いただいた野菜たっぷりの焼き肉弁当を参加者みんなで味わった後



は、抱樸を応援くださっているミュージシャンによるライブ。青空のもと、リズムにのって手をたたいたり踊ったりと盛り上がり、道行く人も足を止め参加する方もいました。恒例の子ども越冬隊のぜんざいのふるまいや抽選会もあり、正月の楽しいひとときを過ごすことができました。

福岡おにぎりの会では、

1月10日日曜日、新春恒例「雑煮大会」を

開催しました。今年もとてもいいお天気になりました。いつもの須崎公園の野外音楽堂に、約90名のお客さ



まが来られました。

熱いお雑煮の他に、つきたてのお餅(きな粉・大根おろしがけ・餡入り)、シソごはんのおにぎりを準備しました。もち米を蒸かす湯気や、お餅を焼く香りとたっぷりのお代わりに笑顔があふれました。

お腹が満たされた後は、恒例のどんぶりの番号による福引きです。大いに盛り上がりました。

その他、歯科検診と福岡県青年司法書士会による法律相談も行われました。

寒い中ですが、ボランティアの方々と、日だまりの中でひとときの楽しい時間を共に過ごすことができました。



かごしまホームレス生活者支えあう会では、

大晦日12月31日の昼過ぎから鹿児島市教育会館2階会議室で、

年越し蕎麦の炊き出しを行ないました。当日は9時前からボランティアスタッフ約20名で準備を行ない、おにぎりやぜんざいと一緒に参加された方に食べてもらいました。



元旦1月1日は12時からお雑煮の炊き出しを行ないました。

お餅は年末に餅つきを行なって用意してもらったもので、焼きたてアツアツの状態です。皆さんに、提供しています。



元路上生活だった方にも呼びかけを行なった結果、両日とも30名を越える参加がありました。帰り際には寄付で頂いたお菓子や飲み物、衣類、カイロ等も渡して、たくさんの方に喜んでもらうことができました。多方面からいただいた寄付の物資も大切に使用させていただきました。年末年始のあたたかなひとときを多くの人と過ごすことができました。

久留米越冬活動の会では、

12月8日、越冬突入集会として屋台村を開きました。信愛女学院短大生の明るい歌声が響く中、おにぎりやおでん、ラーメンなどを43人のホームレスや自立者、51人のボランティアと一緒に楽しみました。



新年1月1日には餅つき大会を開催しました。昼間に行なう唯一の炊き出しです。晴天の中、自立支援住宅で就労に向けて頑張っている30~40代の若手3人も34人のボランティアにまじって積極的に活動し、50人のホームレスや自立者とみんなでぜんざいやお雑煮をいただきました。下着セットや温泉入浴券のお年玉も好評でした。



抱樸館福岡では、みんなで書初め

1月1日、抱樸館福岡の食堂で書初めを行ないました。今年のお正月は天気もよく、ぽかぽかと暖かい昼下がり。気持ちのいい光が差し込む窓辺で、それぞれが思い思いに筆を走らせます。今の気持ち・今年の抱負を文字に込めました。



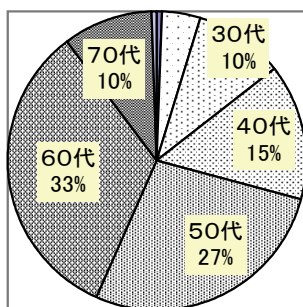
「字は書ききらん！」と照れる人、「かっこいい四字熟語ないかなあ」と携帯で調べる人、転居を目前にして「感謝」と一枚書いて去っていった人、就職が決まり「心機一転」な人。みんなの様子を見てから、何を書くか考える人、鳥(鳳凰)の絵の中に「鳳凰」という文字を入れて、周囲を圧倒させた人、「何十年ぶりだろう」、「あー一曲がった！」と飛び交う言葉に笑い声がひびきました。



若い方から年配の方までの十数名が、参加しました。一年の計は元旦にあり。自由で、和やかで、温かい雰囲気の中、良いお正月のひとときを感じるようになりました。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2015年12月末までの入居者



	人数	割合
10代	4	0.5%
20代	36	4.3%
30代	82	9.7%
40代	124	14.7%
50代	231	27.4%
60代	279	33.1%
70代	82	9.7%
80代	5	0.6%
合計	843	100.0%

2015年12月末現在の入居者

64人(定員81名) 男性64人、女性0人

2015年11～12月の新入居者数・退居者数

新入居者数24名 退居者数19名

(注: 12月末までの入居者数843人は、
2度・3度入居した人も1人と数えています。)

抱樸館下関・抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日: 抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員: 以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協(14生協)
- グリーンコープ連合
- NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2015年10月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 7855名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 154名
- 企業賛助会員 107社

その他(抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年5月開所
- 抱樸館下関(山口県下関市) 2007年4月開所
- 抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年9月開所
- 抱樸館熊本: 準備中

抱樸館福岡の見学のご案内

- (1) グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申してください。
- (2) 個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。

◇出来れば5名以上でお願いします。(ホームページからも見学の申込が出来ます)

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について**抱樸館を支える会 賛助会員募集**

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく(年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

OCR申込書の**1300**で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

OCR申込書の**1299**で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 **01710-0-123003**

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ

担当 家原 電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州 (電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-1-1

抱樸館下関 (電話 083-223-4544 FAX 電話と兼用)

〒750-0025 山口県下関市竹崎町3-5-25